

会議録

会議の名称	平成29年度 清須市行政改革推進委員会（第1回）
開催日時	平成29年7月10日（月） 午後1時30分～午後4時10分
開催場所	市役所北館2階 第1・第2会議室
議題	1 開会 2 あいさつ 3 議事 平成29年度 行政評価（平成28年度対象）に係る外部評価 について 4 閉会
会議資料	会議次第、委員名簿、配席図 〔会議資料〕 資料1 平成29年度 行政評価（平成28年度対象）に係る外部評価について 資料2 平成29年度 清須市行政改革推進委員会のスケジュール 資料3 平成29年度 施策評価結果（平成28年度対象）外部評価対象分 資料4 平成29年度 事務事業評価結果（平成28年度対象）外部評価対象分 参考資料1 第5回（平成28年度）市民満足度調査報告書 参考資料2 第5回（平成28年度）市民満足度調査におけるクロス集計結果（外部評価対象分）
公開・非公開の別 （非公開の場合はその理由）	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	野田委員（会長）、齊藤委員、山本委員、綱島委員、川口委員、山田委員、高山委員、福田委員、中田委員
欠席委員	なし
出席者（市）	加藤市長、葛谷企画部長、加藤企画部次長兼人事秘書課長
事務局	〔企画部企画政策課〕 河口課長、赤羽副主幹、藏城副主幹、石附主査
説明者	長谷川土木課長、加藤子育て支援課長、森川高齢福祉課長、石田産業課長、栗本教育部次長兼生涯学習課長
会議録署名委員	山本委員、中田委員

## 1 開会

(事務局)

ただ今から、平成 29 年度 第 1 回清須市行政改革推進委員会を開催します。皆様には大変お忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。私は、企画部企画政策課長の河口と申します。よろしくお願いいたします。はじめに、委員会の開催にあたりまして、加藤市長からごあいさつを申し上げます。

## 2 あいさつ

(加藤市長)

改めまして、皆様こんにちは。

記録的な豪雨によりまして、北九州で多くの被害が出ておりまして、今なお見つかっていない人がみえます。心からお見舞いを申し上げたいと思います。

あのような災害は、いつでもどこでも起こり得る状況でありまして、早めに正しい情報を出して、早め早めの対応が必要であるということで、そのような備えをしっかりとしていかなければならないと改めて感じているところでございます。

そういう中でございますが、本日皆様方には何かとお忙しい中ではございますが、清須市行政改革推進委員会ということでお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、今年度から、清須市の新たなまちづくりの指針となります「清須市第 2 次総合計画」がスタートしております。清須市の新たな基本理念であります、「安心」「快適」「魅力」「連携」に基づきまして、市民の皆様と協働して、「水と歴史に織りなされた 安心・快適で元気な都市」を目指して、歩みを始めたところでございます。

また、昨年度末には、委員の皆様にご審議をいただき、「清須市行財政改革推進プラン」を策定いたしました。

この計画は、第 2 次総合計画の実現を目指すにあたって、その下支えとなる行財政基盤の構築に向けた重要なプランであり、第 2 次総合計画とともに、プランに基づいた行財政改革もしっかりと進めていきたいと考えております。

本日の委員会では、プランの中でも定められております、行政評価の外部評価といたしまして、平成 28 年度の市の取り組みに係る行政評価の結果をお示しさせていただきました。

この行政評価の結果を活用することによりまして、今後の事業の見直しや改善につなげてまいりたいと考えております。

委員の皆様には、評価の妥当性や客観性を確保することを主眼といたしまして、忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

簡単ではございますが、開催にあたりましてのご挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 議事 平成 29 年度 行政評価（平成 28 年度対象）に係る外部評価について  
（事務局）

それでは、早速議事に入りたいと思います。

議事の進行につきましては、野田会長にお願いしたいと思いますので、よろしくお  
願いします。

（野田会長）

皆様、こんにちは。

今日が第 1 回目の行政改革推進委員会になりますけれども、昨年度、今年の 3 月で  
すが、「清須市行財政改革推進プラン」というものを、皆様のお知恵に基づきながら、  
策定することができました。

それに基づいて、具体的な取り組みに対してここで審議していただくということに  
なりますけれども、重要なこととしましては、事前に自己評価として各課の方でやっ  
ていただいているものを外部の視点から評価していただく、従って客観性を確保して  
いくということになります。そういったことで、忌憚のない意見をどんどんお伺い  
できればなというふうに思います。

まずは、これまでの委員会のおさらい、それから本日の外部評価として、委員の皆様  
から意見をいただきたい点につきまして、事務局の方から、資料 1 と 2 ですね、ご  
説明をお願いいたします。

（事務局）

資料 1 平成 29 年度 行政評価（平成 28 年度対象）に係る外部評価について

資料 2 平成 29 年度 清須市行政改革推進委員会のスケジュール

について説明。

（野田会長）

ありがとうございました。

資料 1 と 2 につきましてご説明いただきましたけれども、この外部評価の目的と、  
それからスケジュールですね。まずはこの二つについて、皆様どうでしょうか。何か  
意見なり質問があればお願いします。

山本委員、お願いします。

（山本委員）

山本でございます。よろしくお願いいたします。

意見というより質問なのですが、資料 1 の右下にあります市民満足度調査結果、こ  
ちらが 5、2、0、マイナス 2、マイナス 5 という点のつけ方ですが、こういうつけ  
方というのは一般的なのでしょうか。普通 5、4、3、2、1 で、3 より上か下かで

どうなのかを見るというのもあると思うのですが、これが一般的なのかどうかということが一つ。

それから、「重要度－満足度」の数字で◎を出されていますが、これは重要だけでも満足されていないということで、◎の値が多ければ多いほど緊急度が高いとか、そういうお考えなのでしょうか。

以上2点の質問でございます。

(野田会長)

はい、ありがとうございます。

私の方から説明申し上げます。まず一般的かどうかということになるのですけれども、どちらが一般的かというと5、4、3、2、1の方が一般的ですね。ただ、清須市さんの方で従来からとられてきたやり方が、この方法でやられてきたということで、そういう意味からいくと、等間隔でもないの、ちょっと統計学、あるいは数学的にもあまり良くない部分はあるのですけれども、より振れ幅を大きくすることで、通常回答するものが3に集中してしまうという部分を、何とか差を出そうという、そういう試みであったのだらうということで、そのかつてのやり方を踏襲して、比較できる形にされたということです。

今回はそれをもって判断していきたいと思いますが、後者の話も山本委員のおっしゃる通りもっともなこととして、このねらいというのは重要だけでも今満足ではないという部分を導きだそうとしているということですね。ただ、これも引いて良いかということになると、普通に考えたら同じ尺度でございませぬし、標準偏差も違いますので引けないのですけれども、ある程度の目安ということで、導き出すことができるという前提でやっています。これは、実際に図面に全部落とし込んで、右下にあるような満足度の平均値とか重要度の平均値ということを全部プロットしながら、そこにあるということを確認していますので、一応問題はないかなというふうに考えています。以上です。

(山本委員)

ありがとうございました。

(野田会長)

他にどうでしょうか。よろしいですかね。

一応私自身も今日委員会に来る時に、分かったつもりなのですが少しこんがらがる部分もございましたので、もう一回整理の意味をこめてですね、資料1の今回皆様にご判断いただく内容、右上の3番のところですけども、達成度指標の要因分析とか、事務事業の評価とか色々と書かれています、そもそも今回行っているのは施策の評価ということですね。大きな政策があって、真ん中にある施策、一番細かい個別の事

業というものがあって、その真ん中の施策ですね。要するに今までは事業ばかりを見ていて、上の部分とつながる部分ということをつながらずに判断していたところを、今回は施策を見ながら評価をしていこうということになっています。それでこの施策なのですけれども、施策の評価の仕方自体は割と色々なパターンがありまして、少なくとも施策を評価する訳ですから施策の進捗状況ですね、達成できているのかどうかということを見るというのが大前提としてあります。ここまでやれば、一応施策の評価なのですが、今回清須市さんはそれにプラス、施策の構成要素である個別の事務事業ですね、事務事業の寄与の状況というところまで踏み込んで見られているということです。ですから、施策にどれくらい、施策を推進するにあたって、その手段となっている事務事業がどれくらい寄与しているのかということまで踏み込んで見られています。従って、この後ご説明いただく資料3の右下に、またご説明いただきますけれども、最後のまとめの部分は「どれくらい寄与したか」とかというような話になりますけれども、本来施策を進めるにあたっての主要な事務事業をどれくらい頑張ってきて、どこに問題があるのかという観点を見ているということです。さらに施策の進捗状況はどうなっているのかということです。

もっと言うと、施策間の関係性というものもすごく重要になってきますので、例えば福祉が良いのか、産業が良いのかというような話も本当は重要になってくるのですが、今回そこまでは踏み込んでいないというふうに私の方では解釈をしております。それをやろうと思うと、今度は政策と施策の関係ということを見ていく必要がございますので、そこまでは今回は見ていない、そもそもそこまで見ている自治体はほとんどないのですけれども、今回大きな政策の分野ということで7つの分野がありますので、その中の施策それぞれについて主要なものを抽出して、その進捗状況の確認とともに、施策の手段である事務事業の寄与状況を見ているということになります。

ごめんなさい、ちょっと複雑で申し訳ないですけれども、それともう一つはですね、事前にお打ち合わせさせていただき中で、私から説明させていただこうということになったのですけれども、これまでのプランを企画の部門だけで作っているという話ではなくて、各担当課さんの方に戻して自己評価してみたものを全部集約しているという形になります。従って、皆様にこちらでご意見いただく内容については、企画政策課さんの方で対応方針をすぐに決められるということにならない可能性もあってですね、全部一旦担当課に戻して、担当課の方に対応してもらおうという形になってきますので、その組織間の関係において、最終的に全部がうまく皆様の意見通りになるかどうかという部分は、なかなか即答できない部分もありますけれども、その辺りはご理解いただいて、なんとか外部の視点で客観性を保てるような改善を目指していきたいなというふうに思っています。

すみません、ちょっと長くなって申し訳ないのですけれども、一応そうしましてご趣旨をご理解いただいたというふうに判断しまして、この後具体的に資料3ですね、資料3の説明を個別に事務局に説明していただいて、見ていただくことになります。

それぞれ7つの施策がありまして、一つずつ、5分説明していただいて、10分強議論していただく形で、今から行っていただきたいなというふうに思います。さらに複雑で申し訳ないですが、資料4については、資料3の説明の中に含まれている補足の資料ということでございますので、より突っ込んだ情報を知り得るために資料4があるという位置付けでございます。

というようなことで早速、ちょうど良い時間になったかと思しますので、今から事務局の方から資料3について、1施策ずつご説明いただき、皆様から忌憚のないご意見をいただければと思います。

事務局、よろしくお願いします。

(事務局)

資料3 平成29年度 施策評価結果(平成28年度対象)外部評価対象分のうち、「施策101 治水対策の推進」について説明。

(野田会長)

ありがとうございました。

早速皆様の方から、色々な観点、どんな観点でも結構でございます。ご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

齊藤委員、お願いします。

(齊藤委員)

齊藤でございます。ご説明ありがとうございました。

まずですね、達成度指標の二つ目のところに「大雨でも自宅の浸水の心配がないと思う市民の割合」というものがございます。これを達成度指標と定められているからには、心配ないと思う人たちが多くなるように、その割合を上げていこうというような指標として使っているのだと思いますが、先程ご説明の中にありました「浸水想定区域」で考えますと、実際に大雨の時、ここでの大雨がどれくらいを指すのかちょっと私も分かっておりませんが、大雨の時にその「浸水想定区域」で、浸水するような市民の割合がどれくらいあって、それが市民の思いの乖離とか、実際どうなのかというところがもし分かりましたらお願いします。

(野田会長)

事務局、よろしいでしょうか。

(齊藤委員)

まあ回答は特にもらわなくても良いかもしれませんが、ここで指標にあるからには、実際に想定する区域がどのくらいあって、それは例えば市民がすごく心配しすぎ

なのだとか、そうじゃないのだとかいうことで、今後の評価とか、今後の実際の周知とか、そこにつながっていくのかなというふうに思いましたので、もしそういうふうにつながっていなければ、今後そういったつながりをしていただければなというふうに思いますので、よろしくお願いします。

(野田会長)

ポイントとしましては、実際の想定区域というものを踏まえながら、この割合というものをどう見たら良いのかという部分があると思うのですね。当然、心配がないと思う市民が100%になれば良いのですが、その辺の連動というか、想定区域の人たちがどう思っているかというところ、何かこう連動しているのかどうかというところですね。その辺りはどうですか。

(事務局)

達成度指標の一つとして「大雨でも自宅の浸水の心配がないと思う市民の割合」を設定しまして、この上昇を目指していこうというところなのですが、本市としましては排水ポンプ場ですとか、雨水幹線の整備を特に力を入れてやっているところでありまして、それを情報発信することで、これだけ治水対策が進んでいるということを知っていただいて指標を上げていこうということもありますが、ただやはり「浸水想定区域」があって、「施策を取り巻く状況」の二つ目の四角ですが、都市浸水の発生を防ぐべき目標を時間雨量63mmとして取り組みを進めていますが、昨今の異常な気象で時間雨量100mmの豪雨が発生するということもありまして、ハードの部分を進めるとともに、「浸水想定区域」がどうなっているのかを知っていただいて、安全な場所に逃げることができるというところも大事なことでございまして、この指標は市の取り組みを知ってもらうことで上げていこうという意図で置いたところではありますが、やはりその関連性というところで、どうやって追っていくのかというのが課題なのかなと認識しています。

(野田会長)

ありがとうございました。

今のご意見を踏まえながらということで、今後も検討を続けてもらえればと思いますけれども、なかなか追えれば良いというのは即答できないですね。

他にどうでしょうか。綱島委員、お願いします。

(綱島委員)

綱島です。

今の関連ですけれども、ちょっと私も地域の詳細を存じていないところもあるので、一般論的になってしまって申し訳ないのですが、恐らく清須市の中でも浸

水、水にちょっと弱い部分と、比較的安全なところと、色々あると思いますので、こちら辺がやはり危険というは何ですけれども、浸水する可能性が高いというところが分かっているかと思いますが、そういったところには確実に手を打っていますということを示していただくということが、まずは第一なのかなと思います。

もう一つは、今各地で、全国的に問題になっていますけれども、ゲリラ豪雨で想定を超えるような降雨があつてですね、それによって結果的に被害が出てしまうということに対しては、なかなかここまでやれば十分だということを明確にはできない部分はあるかもしれませんが、今時間雨量 63mm というところを設定して取り組まれているということですので、こういったところを市民の皆様にも、危険性もそうだし、その代わりこういう取り組みをしているのだということをしつかりと周知することが大事だと思いますので、喫緊のというか、まず少なくともここが弱いので優先的に対処します、それで全体的な話としてはゲリラ豪雨への対処をしていきますというふうに段階的に示して、そういう中で皆様が安心して、危険性の心配がないという方が増えていくというふうにされるのがよろしいのではないかなと思います。

なかなか状況を詳しくは分かっていないところがありますので、適切な意見になっているのかどうかということはあると思いますが、要は具体的に示してあげることが大事なのではないかなと思います。

(野田会長)

ありがとうございます。

綱島委員、今のお話は「施策の評価と今後の方向性」の中で具体的に示すようなイメージですかね。

(綱島委員)

はい。

(野田会長)

分かりました。達成度指標そのものはこれで良いと思うのですが、具体的にというところについては今後の方向性の中でお示しいただくということですね。

ちなみに目標値に対する実績値の評価、左下の部分についても、まだ単年度の基準値しかございませんので、時系列ではありませんから、当初の目的に比べて 80%進捗したとか、そういう具体的な数値ではお示しできていませんので、ただこの中でもやはり周知がまだ課題であるという話でしたから、まさに今綱島委員が言われたことが背景にあるのではないかなというふうに思います。

他にどうでしょうか。川口委員、お願いします。

(川口委員)

本日もよろしく申し上げます。

「市民に分かりやすい水害対応情報の発信」という施策の展開がありまして、今回のこの話とはまたちょっと違うのかなと思ったのですけれども、一応質問してみたいなと思ひまして、この場を借りて質問をさせていただきます。

ガイドブック等を活用して、様々な機会を通じて発信に努めているという形なのですけれども、実際に水害が起こらないと、なかなか皆様どうしたら良いのかというのが、その現場にならないと探し始めたりはしないと思ひますが、今のところ水害でここが危ないのだよという情報とかは、放送以外には何か整備はされているのですか。

(野田会長)

ごめんなさい、今のお話も「施策の評価と今後の方向性」の書きぶりについてのお話でしょうか。それとも具体的な内容をお伺いしているようなイメージですかね。

(川口委員)

はい。ちょっと気になりまして。

(野田会長)

分かりました。参考までに、もし把握されているようであればお願いします。

(事務局)

「市民に分かりやすい水害対応情報の発信」ということで、本市の特徴的な取り組みとして「水害対応ガイドブック」というものを発行してございまして、こちらはどこの地域でどれくらいの被害が想定されるということをマップとしてまとめたものでございまして、これを見ていただいて、うちの地域が危ないよというようなことを認識していただいて、危険な状況になる前に、早めに避難していただく必要があるということを、かなり分かりやすくまとめたものになっていますので、こちらが取り組みの中心になってくるのかなと思ひます。

(野田会長)

ありがとうございました。

他にどうでしょうか。一応ここで見ていただくべき内容は、左下の「目標値に対する実績値の評価」として、まだまだ周知が課題であるというふうに原課さんは考えられてございまして、今後の排水能力の向上をというふうに捉えられています。

更には、その施策を推進する、「治水対策の推進」という施策を推進するにあたっての主要な2事業、「雨水貯留施設費」と「下水道雨水整備費」、それについての寄与度が右下に書いてあるということです。一定効果があった、寄与がされたというような自己評価をされていますが、更には今後の方向性ですね。

どうでしょうか。高山委員、お願いします。

(高山委員)

先ほど綱島委員の意見のところ、会長から達成度指標自体は問題ないかと思いきすというお言葉があったのですけれども、恐らくその前の齊藤委員のご意見とか、綱島委員のご意見は、達成度指標がこれで良いのかなという話ではないのかなと思ひまして、「大雨でも自宅の浸水の心配がないと思う市民の割合」、あまり安心されると、危機感がある程度持ってもらわないと、いつ何が起きるか分からないので、そこは裏返せば危険な指標と言える気もしますし、あと「床上浸水被害の発生件数」、これも起きてみないと分からないですよね。この辺りの指標が果たして良いのかなと思うのですが、いかがでしょうか。

(野田会長)

ごもっともなご意見で、色々な検討を踏まえた上で、出せなかったという部分がございますので、それで設定された3つの指標で総合的に見ていこうということになっていきますので、むしろ高山委員の方から、例えばこういう指標がデータで取れるので、それを設定した方が良いのではないかと一言を言っただけだと、要するに私が即答できないという部分なのですけれども、どうでしょうか。

(高山委員)

すみません、私も聞いていて何か案がないかなと思ひながら考えていましたが、浮かびませんでした。引き続き考えてみます。

(野田会長)

まあでも非常に重要な意見で、この指標だけを見て、達成できていると考えるのはちょっとやはり良くないということですね。指標はうまくいっているけれども、その背景として、今高山委員が言われたようなことについても注意深く見ていく必要があるということですね。それに代わるような指標がこれから把握できれば、設定してもらえればなと思ひます。

(綱島委員)

今ちょうど高山委員が言われたように、私もちょっとここを何か工夫できないのかなと思ひまして、「床上浸水被害の発生件数」とも関連するかもしれませんが、過去に実際に被害が出たものというのは明確になっていると思ひますので、そういったところが再び被害に遭わなくなったというのか、改善が図られましたよというようなものを、多分何点か赤色の発生箇所が仮にあったとしたら、それがどんどん消えていくような、そういう「見える化」的なマップというのでしょうか、色々な工夫、やり方

はあるかと思えますけれども、少なくとも二度と同じところでは起こらないというようなものが明確に示されれば、皆様が全体的にも安心していただけるのではないかなとちょっと思いましたというか、意見です。

(野田会長)

ありがとうございます。

今のものを明確に指標化していこうと思うと、毎回毎回の雨量も違いますので、雨量に比してどれくらい対応できるようになったかということが、過去からのデータベースでストックできていればGISとかに重ねてもらってですね、多分今すぐには無理だと思いますけれども、そういった視点がより適切に捉えられるということですので、もしかしたら都市計画課さんとかがその関連するようなもの、あまり聞いたことはないのですけれども、あるかもしれませんので、ご検討いただければと思います。

他にどうでしょうか。山田委員、お願いします。

(山田委員)

山田でございます。よろしく申し上げます。

質問になってしまうと思うのですけれども、「目標値に対する実績値の評価」というところで、「ゲリラ豪雨があったので浸水してしまいました。でも2時間でした。今後排水能力の向上に努めていく必要があります。」という文章なのですけれども、これは計画が100%進捗していた場合は防げたのだというようなものではないのでしょうか。63mmとして設定して計画が進んでいるので、これでは無理ですよ、もともと無理なのですという形なのですかね。「排水能力の向上に努めていく必要がある」という文章になると、改善できるのですよと。その改善方法も「施策の評価と今後の方向性」で具体的なものが出ていて、時間の経過によって、これは今後被害があってももっと軽微になるであろうという、被害が縮小されるというふうに読むのでしょうか。その辺りはどういうふうに、私の方は考えればよろしいのでしょうか。

(長谷川土木課長)

土木課長の長谷川と申します。よろしくお願いいたします。

今現在は、時間雨量63mmの雨が降っても浸水被害をなくすことができるという目的で事業を進めておりまして、それは清須市1市が事業を進めるのではなく、新川流域という、河川の上流から下流の方までが一体的になって整備をしていくということで、会議を定期的に設けてやっているところです。

愛知県さんの方が河川を管理しておりますので、愛知県の方では河川の整備、新川及び新川につながる五条川を始め、色々な、河川の川幅を広げたりとかそういう整備をしております。それで各市町の方ではポンプ場の整備、下水道の整備、そういったものと土木課の方でやっております雨水貯留施設、一旦降った雨を一時的に川に流

す前にためるという施設を作っておりまして、それが今のところ 83% くらいの計画に対する整備率となっております。これが全て整備されても、時間 63mm の対応までしかちょっと今のところは予定がありませんので、やはり昨年のような 1 時間に 100mm という雨が降った場合は、どうしても一時的には雨がたまることになってしまうのですが、少しでも整備をすることによって、ためる量も増やして、なるべく早く川の方に流す、それで川の方も川幅を広げたりとか、堆積している土とかを取っていただくことで早く海の方に流すということを連携してやっております。

ちょっとあまり答えにはなっていないのですが、63mm の雨が降っても市内で冠水しないような対策を今一生懸命進めているというところでございます。

(山田委員)

これが阿原地区でという、ある一定の地域で被害が出たということなのですから、全体の整備をすることによって、もしも同じことが起きたとしても、若干なりとも改善されるという、そういう状況ということでしょうか。

(長谷川土木課長)

そうですね。今回の場合はたまたま阿原地区で床上浸水があったということなのですが、全体を整備することによって、そういった箇所が少しでも減っていくのではないかと考えております。

(野田会長)

ありがとうございます。ここは特に皆様の関心が高いところなので、今大分時間がオーバーしているのですが、もう一つくらいもしあればお願いします。今日はずっと関心の高いものが続くのですが、取り急ぎ多分この部分が最も重要なところかなという気がしますので、どうでしょうか、もう一つくらいもしあれば。

川口委員、お願いします。

(川口委員)

ありがとうございます。目標の達成度指標で、今お話を聞きながら思いついたことというのか、「心配がないと思う市民の割合」というのはなかなか増やすことができないのかなと思うのですが、例えばハザードマップ、「水害対応ガイドブック」等に危険な場所とか、例えば危険度で 1、2、3、4、5 というのが分かっているものが表記されているのであれば、実際に水害が起こることは 0% にはならないので、自分の住んでいるところの危険度を認知しているかどうかという指標を作って、それを市民の方々が各々、例えば自分のところがどの程度危ないのかというのを把握することができれば、実際に起こった場合の対応自体も早くなるのではないかなと思ひまして、そういう指標を作ってはどうかなということを思いました。

(野田会長)

自分の身の危険をどれくらい認知しているかということですね。それに関わる指標をもし何か、統計書にはないので、何かアンケートを取るというくらいしかありませんので、そういったもので今後何かの時にもし質問できるのであれば、検討の一つになるということですね。それに代わるような指標というのか、統計書としてはないのでよね。ですからアンケートの中でということになるのでしょうけれども、よろしいですかね。

そうしましたら、もう一回もし最後にご意見があるようであればさかのぼって結構でございますので、とりあえずは今ここに書かれている自己評価の結果について、皆様からいただいた意見を担当課の方にもお伝えしていただきたいなというふうに思います。

それでは続いて施策 202 ですね。すみません、ちょっと時間がおしてしまって申し訳ないのですが、説明の方はできれば少し手短にということでお願ひします。

(事務局)

資料 3 平成 29 年度 施策評価結果 (平成 28 年度対象) 外部評価対象分のうち、「施策 202 子育て支援の充実」について説明。

(野田会長)

ありがとうございました。

このページについても、それぞれ「目標値に対する実績値の評価」が左下に書いてありますし、右側には「各事業の施策への寄与度」というものが書いてあります。その上での今ご説明がありました「施策の評価と今後の方向性」についてです。ここでの施策というのは「子育て支援の充実」ですね。子育て支援が充実しているかどうかという結果が左で、寄与度が右、それで方向性です。皆様、いかがでしょうか。

高山委員、お願いします。

(高山委員)

高山でございます。

資料をお届けいただいた時にちょっとお話をしていたのですがけれども、監督官庁が非常に入り乱れていて、お金がどこからどのように動いているとか、そういうことを考え出すと非常にきりが無い、複雑な話だとは思いますがけれども、やはり市のメインでいこうという分野かと思っておりますので、他の市町村ではやっていない目玉となるようなものがこの中にあるのだろうか、あるいはないとしたら今後どのようにお考えなのだろうかというところで一つお伺いしたいなと思ひます。

あと、達成度指標のところは利用者の満足度という指標がほとんどかと思ひますけ

れども、正直なところ民間のデイサービスとかが一般に清須市に入ってこられるような状況になれば、自然と満足度って、そんなに一生懸命やらなくても上がってくるのではないかなという気がします。というのは、障害児のデイサービスの方とちょっと話をしていましたら、障害児はこの施策ではないかもしれませんが、ただ学童で預けるよりも安い価格になるとか、補助金があるとか、そういった民間の誘致に関してはどのようにお考えなのか。その2点、よろしくお願いします。

(野田会長)

ありがとうございます。今の意見、いかがでしょうか。

(事務局)

すみません、民間の活用の話ともう1点は。

(野田会長)

1点目は清須市として目玉になるようなもの、総合計画でも上にあげていますので、どの辺が特徴的なのかということですね。

(加藤子育て支援課長)

子育て支援課の加藤と申します。よろしくお願いいたします。

清須市で目玉になる取り組みといいますと、「施策の評価と今後の方向性」のところの下から2段目でございます子育て情報発信の「キヨスマ」がございます。こちらは他市でもなかなかやっていないことだと聞いていますので、この子育て情報発信の機能につきましては、本市の特色ある取り組みだと思っております。充実した子育て情報を発信することによって、お子さんを持つご家庭が安心して暮らせるような形で、今後も進めてまいりたいと考えております。

2点目の民間活用の関係につきましては、「施策の評価と今後の方向性」の方にも書いてございますように、平成27年度から始まった新たな制度であります「子ども・子育て支援新制度」に基づきまして、保育園と幼稚園が並存する施設である認定こども園について、平成32年度の開設に向けて取り組んでいるという状況です。以上でございます。

(野田会長)

ありがとうございました。今高山委員の方からお伝えいただいた質問に反応する形で、「キヨスマ」というのが一つの重要な、特徴的な施策であるというお話でした。そことうまく連携できているかどうかということも踏まえてですね、この評価の仕方について、皆様どうでしょうか。

中田委員、お願いします。

(中田委員)

ちょっと行政の肩を持ちたいと思うのですけれども、私は春日で放課後子ども教室の指導員をしているのですが、放課後子ども教室は各小学校に全部欲しいのですけれども、とりあえず昔の4町村に一つずつしかないのです、それで「市民満足度調査における満足度」がちょっと低いのかなというふうに思います。我が春日のところは一つの小学校しかないのです、一つの放課後子ども教室を作ることができて、一番初めに作っていただいたのですが、収容場所が狭いため、最初人数を決めて、それよりもたくさん応募があった場合には抽選ということをしていましたが、出席が自由なので、その人数が毎回毎回来るわけではないので、「私たち指導員が頑張りますので抽選ということをやめてください」というふうに市、教育委員会の方をお願いして、色々話し合っって試行錯誤をして、この度7年、8年目にして初めて誰でもOK、抽選なしですよということが完全に確立されて、いつでも応募できますよということになりました。引っ越してきた人も、去年までは最初の4月の時に応募がもう締め切られていますので、そういう良い施設があっても入れませんというふうだったのですが、それでは気の毒ですので、「引っ越してきた人はいつでも良いですよ」、あるいは「抽選を忘れた人も気がついた時で良いですよ」ということになりました。でも、ふたを開けたらとても大変で、ちょくちょく変動がすごくあるので、「え、また入ってくるの」とか「え、この人やめたの」というような感じで、もう本当にこちらの事務に関することはくしゃくしゃになりつつあるので、やはり市民に甘くするというのは良くないことでもあるなというふうに痛感しています。ですので、やはり決まり事というのは市民にも守ってもらう必要があるのです、そういうことはきっちり決めて進んでいくという行政のやり方を市民はもっと理解して、それに協力できるように、そんな賢い市民になって「子育てのしやすいまちをつくるぞ」という感じでやっていってもらえたら良いなと思いますので、行政の方には色々迷惑をかけ、私たちの勝手な言い分も聞いていただき、そして、かつまた反省もあり、その繰り返しなのですが、行政の方の努力はすごいなというふうに私は心から思っていますので、今後色々なことを思うにあたって頑張ってもらいたいなというふうに思いますし、賢い市民になりたいとつくづく思っております。

ちょっと違うのですけれども、そのような感じですので、「市民満足度調査における満足度」というのは地域によってちょっと違うのかなというふうに思っています。でもまあ資金が足りない部分もあるので、一つの小学校の下に一つというのが理想なのですけれども、それができないのが現状かなと思っていますが、市民も最初は放課後に預けるということができた時には、ちょっと親として後ろめたいような気持ちがあったと思うのです。親がいるのに子どもを預けて良いのかなって。でも今は預けて当然、こういう良い施設があるなら利用しようという感じでちょっと寂しいです。親としてもっと自覚を持って子育てして欲しいというふうにこちらが思うような態度

の市民がいっぱいいるので、もうちょっと行政のことを考え、「自分たちの子どもは自分たちで守るのだぞ。そして、ちょっと手助けしてくださいね」という、そういう気持ちをもって欲しいと心から思っております。以上です。

(野田会長)

ありがとうございました。

非常に具体的な、実情を踏まえたご提案でしたので、是非事業実施にあたってですね、市民を教育するという、市民に理解を求めるといふ部分、まあ実情を知ってもらふということが分かれば、満足度も自ずと期待水準というものが適切になりますので、今のサービスの状況でも十分向上すると、そういうご意見であったと思います。

ありがとうございます。他にどうでしょうか。齊藤委員、お願いします。

(齊藤委員)

齊藤でございます。

資料1の3のところ、私たちの今日の視点のところで4点あげていただいておりますが、そこと対応させてちょっと見させてもらいますと、「各事業の寄与度が適切か」というところで考えますと、こういった決算の状況とか、色々活動の状況なんかを見て「寄与していましたよ」という評価をされているということは、またそうなるのかなというふうに感じております。

また今後もですね、民間活用とかをやりながら充実したものをやっていくというところで、それも私もこの評価から納得しているところでございます。

だとすると、ちょっとだけ足りないというか、ちょっとこう引かかるころがありまして、「達成度指標の要因分析が妥当か」というところで見ますと、「目標値に対する実績値の評価」というところを見れば良いのかなというふうに思いますが、まず四角の二つ目のところにですね、「満足度は高い水準にあるのだけれども、保護者との信頼関係とか、そういうコミュニケーションとかに取り組む余地がありますよ」というところがまず一つ書いてあります。この余地というのが、今の保育士さんの数とか、勤務時間とかそういった内容の中で、プラスアルファでやっていけるものなのか、それともやはりそこにもうちょっと人が必要なのかとかいったところですね、やはり評価というか、この「余地がある」という言葉だけで終わらせてしまうと今後のところにつながっていきにくいのではないかなというふうに一つ思いました。

また二つ目ですが、四角の一つ目に「充実を求める意見も多く見られますよ」というところが書いてありまして、今後の方向性のところには「利用者のニーズを踏まえながら」というふうに書いてあるところがあります。やはりですね、この保育サービスとか、幼児教育というところを考えておりますと、公の役割みたいなところを考えますと、あまりにも保育のサービスの内容が多様になっていった結果、「家庭における保育能力が失われていますよ」ということを言われる方も今いらっしゃると思います。た

だですね、保育サービスがあることで、家庭にある保育の水準が上がっているということもあって、ちょっとそれはやはりそれぞれの家庭の環境でも違うのかもしれませんが、清須市さんが求める水準でいくと、満足度調査で求められた意見の妥当性、妥当なかどうかというような選別までやはり行っていくべきなのかなというふうに思っていて、行っているのかというところで、もし行っていないならばそういった意見で「やはりこういうことに取り組むべきなのだ」と、それとも「そこはやはり家庭の領域だよ」というところで抑えておくのか、あまりにもニーズを全部「受けますよ、受けますよ」というやり方はちょっと違うのかなというふうに思いましたので、また今後そういったところを少し入れていただければ良いなというふうに思います。以上でございます。

(野田会長)

ありがとうございました。

今お二つご意見をいただきましたけれども、一つ目は家庭との信頼関係、要するにここでの「余地」とはどういうことかということですね。多分「余地」というのは私の勝手な主観的な話ですけれども、単純に保護者との信頼関係を強くしようというくらいの話かなという気はするのですけれども。

(齊藤委員)

私はその文章のどちらかという前半、「保護者とのコミュニケーションを増やすなど」とありますが、保育士さんが今の体制の中でそれをやりなさいと言われた時に、保育士さんが対応できるのでしょうかということで、問題意識がある中で対応できないとすれば新しく保育士さんを増やすとか、そういったことが必要になりますので、現状はどうなのでしょう。

(野田会長)

単純にコミュニケーションを増やして、信頼関係を高めることで、満足度を高めていこうというくらいの意識でしか私は考えていなかったのですが、公立の保育所なのでこれは全然違う観点かもしれませんが、全国的に保育所の民営化が進められている中で、横浜市のように民営化をすることによって保護者と市との関係が非常に崩れてしまって、裁判になるようなところも結構あるという事実がありますよね。ですので、そういう意味からすると、保護者と市というか、市の職員である保育士さんとのコミュニケーション、それから信頼関係が重要だという大前提を充実させるというくらいの話だと思ったのですが。ちょっと聞いてみないと分かりませんが。

(齊藤委員)

充実させるということが今の状況でできるのか、できないのかということで、コミ

コミュニケーションをとるということはすごく時間がかかると思いますので、保育士さんとしては今もやっているのかなとは思いますが、その中でさらにやるということになると、その余力があるのでしょうか。

(野田会長)

多分イメージとしては、民間の保育士さんも含めてということでしょうか。

(齊藤委員)

民間とか公立ということではなく、ここでは公立の保育園 13 園で話をしていますので、公立の保育園で更なる満足度の向上に向けて「じゃあやりますよ」といった時に、できる状況ならば良いのですが、できないような状況もあるのではないかと思いますので。

(野田会長)

できないような状況ということですが、ごめんさい、ちょっと事務局にどのように考えているか聞いてみましょうか。まず一つは信頼関係を高めていく余地があるというところについてのご意見、もう一つは家庭での保育機能とのバランスということですかね。これも多分、選別する作業までは市としてやることができないのではないかと思いますので、そこについてはどうでしょうか。

(事務局)

齊藤先生のご意見ですが、確かに保育士と保護者とのコミュニケーションをとればとるほど、保護者の方は保育に対して安心する、その安心をもって満足度も増えるということで、コミュニケーションが増えればそれに比例して満足度も増えますが、それをどこまでやっていくのですかというのが恐らく齊藤先生のご意見の趣旨だと思うのですが、やはり今の保育士の人員体制の中では、齊藤先生が言われるように限られた時間しかないというのが事実です。それをどのように増やしていつ、どこまでそれに比例して満足度を上げていくのかというのは、現時点においても満足度は高い水準にありますけれども、現状の人員の中でより満足度を上げるために、コミュニケーションを今の人員の中で極力増やしていきたいというような趣旨でこのように書いているところです。

(齊藤委員)

ご理解いただきましてありがとうございます。私が言っていたのは、やはりある程度満足度が高いということは、自分たちでちゃんと評価して良いのかなというふうに思っているところです。もちろん、すごく謙遜されて言われるということがこういう場合に多くあるのですよね。高い満足度をより伸ばしたいというふうに、私たちが結

構学生のアンケートとかがあるのです。そう書きますし、書きたい気持ちもよく分かるのですけれども、でも今でいっぱいいっぱいですごく頑張っているというところに、さらにとすると、やはり人員を増やすとか、その手当てがないとできないのではないかと思います。コミュニケーションをとるということは、さらに時間も労力もすごく必要なことなのです。しかも目にはすぐには見えないですし、効果というのもすぐには現れてこないというところで、すごく大変なところなので、やはりこういう自分たちが「より頑張っています、やっていますよ」ということに関しては、評価もきちりとして良いのではないかなというふうに思っていたというところです。それで、もっとやるというのであれば、そこに対して割くというような方策でもって、次につなげていくということをした方が良いのではないかなというふうに思ったところです。ありがとうございます。

(野田会長)

ありがとうございます。他にどうでしょうか。

もう時間は大分過ぎていますが、もう一つくらいあれば。よろしいですかね。一応ここでは寄与度、それから今後の方向性ということまで、一定はご理解をいただいているかなというふうに解釈して次にいきたいと思います。

そうしましたら「施策 303 高齢者福祉の充実」について、事務局お願いします。

(事務局)

資料 3 平成 29 年度 施策評価結果（平成 28 年度対象）外部評価対象分のうち、「施策 303 高齢者福祉の充実」について説明。

(野田会長)

ありがとうございました。

「目標値に対する実績値の評価」も一定、直接サービスを受けているターゲットである 70 歳代以上の人たちで 38% と高いですし、また各事業の寄与度も一定寄与したというふうに考えられて、今の方向性ということでした。

皆様、いかがでしょうか。高山委員、お願いします。

(高山委員)

右側の方の「各事業の施策への寄与度」のところですが、どう取れば良いのかちょっと分からなかったのが、一番上の四角で「緊急通報システム及び配食サービスの実施により、実現に寄与することができた」とあるのですけれども、例えばここで連動するその上の「事務事業評価の結果」というところでは、「緊急通報システムの利用者数」は目標値より 5 人下回っていて、「配食サービスの利用者数」も目標値より実績が下回っていますが、これはどう解釈すればよろしいのでしょうか。ちょっ

と分からないので、教えていただけますでしょうか。

(野田会長)

これは「寄与することができた」、まずこの寄与というのは、要するに資料1でいけば達成度指標の、事務事業の要因分析ですね。達成度指標に対して、この個別の事業がどれくらい寄与したかということですね。それが時系列で10個くらいデータがあれば、実際に寄与したかどうかというのを見ることができるのですけれども、単年度しかないというのがありましたので、記述的に書いているということですね。「できた」というのが、1%でも寄与したら「寄与できた」と言えますので、上の活動指標の状況も踏まえながら、担当課さんの方で「できた」というのがどれくらい、具体的な数字は示すことができないとは思いますが、どれくらいのお気持ちで書かれたのかということはいかがでしょうか。

(事務局)

まず高山委員が言われた活動指標のところですが、この「高齢者セーフティネット対策費」、「緊急通報システム」とか「配食サービス」ですけれども、確かに見込値よりも実績値が少ない状況になっているのですけれども、これを使う人が増えれば良いのかという話ではなくて、困っている人がサービスを使っただくことで、在宅で住みやすい暮らしを続けていただくということが目的でございまして、若干見込値が高かったものの、実績値がこれくらいで推移したというところではありまして、施策としては在宅生活への支援というところで、こちらの事業は大きな役割を果たしているという認識をしているところでございます。

(野田会長)

ありがとうございます。

ごめんなさい、私自身もちょっと読み違えていまして、ここはキャパシティを示して、その中にちゃんと納まっているという、そういう捉え方が正しいという感じですね。

他にどうでしょうか。山田委員、お願いします。

(山田委員)

シルバー人材センターのことで少しお聞きしたいのですが、資料4の事務事業評価結果の11ページのところで、平成29年度予算がのっているものですから、それを見ますと平成28年度に予算が増加し、平成29年度は予算がまた戻るという形になっています。これは何か平成28年度に特別なことがあったということですよ。それが1点。

それと、シルバー人材センターの会員数を活動指標にしているのですけれども、た

だそれが減少していると。減少していて、寄与度を見るとやはり「支援を行うことにより、社会参加を推進することができた」という文章にはなっているので、「会員さんに対してお金を出しているからそれで良いのだ」というふうに読んでしまうとあれなのですけれども、会員さんのうち、会員さんになったけれども実際にシルバー人材センターの方でお仕事をされている、講習を受けてお仕事をされた方の人数というのはどんなふうなのかと。多分後から入ってくる方、まあ若い方が入ってくるかと思うのですよね、そういう方たちは活動されているのですが、長くそこに会員としてみえる方は活動をされていないのではないかとというのがちょっと頭にあったものですから、その辺りはどうでしょうか。

(野田会長)

シルバー人材センターの予算と会員数に関わるご質問ですが、どうでしょうか。把握している範囲で。

(事務局)

まず事業費のところ、平成 28 年度が大きくなっているという状況ではありますが、これはシルバー人材センターの方に市から職員の派遣ですとか、そういうことを行っている兼ね合いがありまして、人件費部分としてシルバー人材センターへの補助を行っている場合と、直接職員が出向している場合があります、その関係で補助金の額が違うということでございます。

2 点目ですが、会員数についての質問ということですのでよろしいでしょうか。

(野田会長)

そうですね。会員数ということで、若い実際にやられている方も、やられていない方もいるのですけれども、ここの目的というのが、要は高齢者の生きがいづくりや社会参加を推進するという話ですので、支援をすることで推進できているというふうに本当に言えるのかという趣旨ですね。

(森川高齢福祉課長)

高齢福祉課長の森川でございます。

今の就業をされてみえる方の率のご質問でございますけれども、91.9%でございます。以上でございます。

(野田会長)

まあ9割くらいの方は何らかの形で社会参加、社会に関わられているということですね。そのことによって生きがいということが、高齢者福祉の充実に寄与しているという理解をするということですね。

どうでしょうか。もう一つ、二つくらい。福田委員、お願いします。

(福田委員)

失礼します。

「達成度指標の状況」のところですが、三つ指標がありまして、「自分が元気であると思う 65 歳以上の市民の割合」ということで、すごく元気なお年寄りが多いということだと思えます。シルバー人材センターの方でお仕事をしていらっしゃる方もいるのですけれども、結構内容を聞きますとシルバー人材センター、大人の方の人間関係がすごく難しいということをよく聞いております。それで、実際にそういうお金をもらうよりも、自分の意思で生きがいつくりとしてボランティアをするという、そちらの方の考え方に最近は移行してきているような、私の周りの話を聞いたところではそういう方が多いようです。

本当に今、生きがいつくりということなのですが、自分たちで本当に元気な間はなんとか社会貢献しようということ、色々なところで色々な活動をさせてもらっているのですけれども、動けなくなったらその時お世話になろうというようなことで、そういう考えをしているのですけれども、本当に市の方で「施策の評価と今後の方向性」というようなところ、すごく感心しているのですが、「官学連携」によるということ、今「げんき大学」というものを市でやっていただいて、最初は 20 名の応募だったのですが、実際には 30 名の学生が週 2 回勉強させていただいているというようなことで、認知症の予防とか、それから健康維持とか、そういうことは本当にとっても良いことだなというふうに思っております。

それからまた、地域で動けない方とか、そういうようなことに対しても、包括支援の方で「ケア会議」というものやってみえるのですよね。それで随分色々な方が出てみえて、お医者さんから、薬剤師さんから、ケアマネさんから、包括の方から、本当に 30 人くらい集まって、専門部会は 2 つくらいのケースを「この立場だったらどのような支援ができるのか」というようなことで、すごく皆で話し合ったのですが、そういうことで高齢者福祉に対しては、市の方で本当によく取り組んでいただいているので、こういう目標値も、満足度も高いのかなというふうに思っております。

本当に高齢者福祉の方で頑張っていただいていますので、感謝しております。ありがとうございます。

(野田会長)

ありがとうございます。

達成度について、それから今後の方向性について、自己評価を補強し得るご意見であったかと思えます。

もう一つくらいあればと思いますが、どうでしょうか。よろしいですかね。

そうしましたら 5 分休憩を取りまして、3 時から再開したいと思いますので、よろ

しくをお願いします。

(休憩)

(野田会長)

そうしましたら施策 402 について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

資料 3 平成 29 年度 施策評価結果（平成 28 年度対象）外部評価対象分のうち、「施策 402 道路・橋梁の整備・適正管理の推進」について説明。

(野田会長)

ありがとうございました。

これについてのご意見等、いかがでしょうか。まあ、ある程度の評価はあるというご理解ですね。もちろん修繕していくところの優先順位付けというような課題もありますし、整備に関してとか、道路に関してということです。今までと違ってハードの話ですけれども、交通利便性という観点からもいかがでしょうか。

皆様のお考えとそんなに大きく離れていない感じでしょうか。はい、中田委員お願いします。

(中田委員)

道路の周りの草刈りとかは関係ありますでしょうか。

(野田会長)

道路の周りというのは、街路樹とか、そういうものではなくて、周辺の草刈りとかということでしょうか。

(中田委員)

私が住んでいる地域は、畑とか田んぼの真ん中のところに住んでいるので、その市道の周りが結構草ぼうぼうなのですが、畑の方のところは畑の方がきれいにしていて、トラクターミナルなんかもあるのですけれども、そういうところは結構草が生い茂っているので、そういうところに食べたかすやスーパーの袋なんかがよく落ちているので、ごみゼロ運動でごみを集める時にはすごくたくさんのごみになるのですけれども、それをなくすために定期的に草刈り、たまに 1 年に何回か行政の方の車がとまって草刈りをしているのですけれども、その回数が増やせたら良いなというふうに思います。かといって、私がやれば良いのですけれども。

(野田会長)

個人というより、自治会、町内会さんの方でというのはあり得ると思いますけれども、これは維持管理で、道路整備の部署とは違うのでしょうか。

(長谷川土木課長)

土木課長の長谷川です。お願いします。

この左の「施策の展開」の1番で「道路の適正な管理」というのがありまして、草刈りもこの中でやっております。ただ、全ての道路の、全ての道路区域に生えている草を全てやりきれているかということ、やりきれていない部分というのものもあるのは確かですし、限られた予算の中なので、基本は大きな道路に付随しているようなところの草刈りというのをほぼ年1回程度はやっているところですが、ちょっとそれ以上ですと随時というような形になってしまうかと思えます。

(中田委員)

そういう時にシルバー人材センターとかは活用できないのでしょうか。

(長谷川土木課長)

そうですね。シルバー人材センターさんをお願いする時があれば、土木課の方で現場の簡易な穴埋めですとか、そういった草が生えていて、私どもが一番気にするのはどうしても見通しが悪くなって交通事故につながるような場所、そういったところは積極的にうちの方で、現場で維持管理を行う作業員というのが3人おりますので、そちらの方で色々な道具を積んだトラックに乗って毎日パトロールをしながら、そういったところの管理の方をしております。

ただ全部やりきれているかということ、やりきれていない部分もありますので、市民の方からご連絡をいただいて、その都度という時もあります。

(中田委員)

分かりました。どうもありがとうございました。

(野田会長)

ありがとうございます。

おおむねここで書かれている内容については、皆様から一定のご理解をいただいたということにしたいなと思っておりますので、もし何か最後にあればお伝えいただきたいと思います。そうしましたら、次に「施策 501 観光の振興」について、事務局お願いします。

(事務局)

資料3 平成29年度 施策評価結果（平成28年度対象）外部評価対象分のうち、「施策501 観光の振興」について説明。

（野田会長）

ありがとうございました。

今のご説明に対して、この事業というか施策に関して、ご意見いかがでしょうか。山本委員、お願いします。

（山本委員）

山本でございます。よろしくお願いいいたします。

KPI、達成度指標として「休日の滞在人口率」と「清洲城の入場者数」が出ているのはまったく異論ございません。この中で「清洲城の入場者数」について、意見を述べさせていただきます。

まず平成28年度の清洲城の実績ですがマイナス8%、約7,000人の減少と大きく落ち込んでいます。原因分析としては色々書いておられまして、平成27年度の日吉神社の初詣客の来場等々書いておられますが、実際には平成25年度の実績よりも低い実績となっております。日吉神社の初詣客の来場があって、その反動が出たのであれば、何らかの対策を打っていないといけなかったのではないかと思います。何かされたのでしょうか。もしくは、されていなかったのかということなのです。

それに付随してであります。来年愛知県の大型観光キャンペーン「デスティネーションキャンペーン」が行われます。こちら、目標値の前期目標は平成31年度の実績になるのですかね、もし平成30年度の実績であれば「デスティネーションキャンペーン」の影響が出るので前期目標は達成できるかもしれませんが、翌年の平成31年度の実績であれば「デスティネーションキャンペーン」の反動は絶対に出ますので、前期計画の目標達成に対してどういうふうを考えておられるのか、対策をされるのかという、これをお聞かせいただきたいということです。

三つ目がですね、今後の取り組みとして訪日外国人向けの施策ですとか、清洲城の施設長寿命化計画とあわせてということなのですけれども、こちら具体的な内容がちょっと見えません。セントレアほかでのPR等々、聞いたことはありますが、実際にマスコミにどう働きかけるのかとか、旅行代理店にどう働きかけるのかとか、あるいは訪日外国人に対してもどこの国であるのかとか、あるいは清洲城の施設長寿命化計画策定とあわせて、どうにぎわいを作るのかといった、そういった今後の方針を聞かせていただきたいと思います。以上、長々と失礼しました。

（野田会長）

ありがとうございます。

「達成度指標の状況」の「目標値に対する実績値の評価」、それから今後の対策と

か寄与度全般に関わる話として、もうちょっと具体的に、まあ恐らくここで書かれているものがちょっと甘いのではないかなという話につながるのかなという気はしますけれども、3点ございました。

一つ目は、平成25年度よりも低くなっているということもあるのですが、反動に対して何か対策を打ってきていないのであれば、やはりもう少し深刻に受け止める必要があるのではないかとということです。

二つ目は、「デスティネーションキャンペーン」に関わることで同じ様に、平成30年度、平成31年度の捉え方によっては、反動に対する対策が必要であるが何か考えているのかどうか。

最後は、訪日外国人、それから施設長寿命化に関わる話として、具体的にですね、どうやってにぎわいを作るのかとか、どのように、外国人を増やすということであれば代理店などに、代理店にお願いするのかどうかも含めてですけども、どういう対策を打っていくのかということです。それを踏まえて、この評価を判断したいということです。いかがでしょうか。

(石田産業課長)

産業課長の石田と申します。

確かにおっしゃるようになりますね、清洲城の入場者数については、日吉神社のせいにしてはいけないところはあるかと思いますが、実際に平成27年度は日吉神社の干支の年でありまして、集客は多くなっています。平成26年度と比べても平成28年度が少ないということに関しましては、深く反省しなければいけないというふうに思っております。

ただ、何も取り組みをやっていないということではございませんので、清洲城の方に来ていただくお客様に対して、何か視覚的な機会をとということで、資料の右上の方にも書いてございますが、無料ゲームアプリ「SHIROPO」ということで、清洲城に来ていただいた方にゲームを楽しんでいただいています。それから一方で試着体験ですね。これは甲冑の試着体験ですが、そういった体験型の観光もできるとということで、これをPRさせていただいております。

それから、「おもてなし事業」の関係につきましては、武将の方を中心に清洲城に立っていただきまして、おもてなしをしていただくのですが、昨年度はその中で、紙芝居を城の中で上映しておりますが、その紙芝居を一つ増やしてですね、より充実した内容にして今取り組んでいるところでございます。

それから、ちょっと前後してしまうかもしれませんが、外国人の方に対する取り組みということなのですが、今実際に大手旅行会社にツアー造成をお願いしまして、実際には今年に入って、1月からなのでですけども3回来ていただいております。対象はタイ人の方で、それぞれ3回やって20名ずつ、60名くらいの観光客の方に来ていただいております。今後も継続してということで考えています。またアメリカ人の

方を対象にした別のツアー造成を今検討しているというところでございます。

その他の取り組みとしては、説明でもございましたように大型キャンペーンの後の話というのが出ましたので、そこを何とかしないといけないというところもでございます。ちょっと先を見通すとリニアの開業とかですね、そういったこともございますので、リニアの開業に伴ってショートトリップ、いわゆるビジネス観光客の方に来ていただくような観光推進というのを進めていかなければいけないというふうに思っております。リニアの大阪までの開業はまだ先で、名古屋で必ず降りますので、名古屋で仕事をした後に観光していただくということが非常に大事なかなと思っております。それも時間をかけては日帰り出張できませんので、清須というのは名古屋の隣でありますので非常に格好の場かなというふうに思っております。

そういった中で、単に清洲城だけですと観光としては非常に薄いということになりますので、今日は山本様がいらっしゃっておりますが、麒麟ビールのビール工場の見学、それからレストランでビールを飲んだりとかですね。それから平成 32 年度には貝殻山貝塚遺跡、朝日遺跡なのですが、これが皆様に知られていないということがございまして、実は吉野ヶ里遺跡に匹敵するくらいの大きな遺跡で、平成 32 年度に新資料館にリニューアルします。それで清洲城、それから麒麟ビールさん、それから資料館というセットで観光振興に取り組んでいきたいということで、市内の滞在時間の延長、増やしていくというような取り組みを進めていきたいというふうに考えているところでございます。以上でございます。

(野田会長)

ありがとうございます。

非常に充実したコンテンツを今ご検討されている、しかもビジネスの方、リニアを見据えたコンテンツまでご検討されているということですね。

対策ということで、特に意見を言いやすい分野ではあるのですがけれども、対策していないわけではなくて、きっちりとやられている部分もあるかと思えます。ただまあ意見が言いやすい分野ですから、色々な意見はあるかと思えますので、ご意見いただいたことも踏まえて考えてもらえたらと思えますが、いかがでしょうか。

高山委員、お願いします。

(高山委員)

高山でございます。

「目標値に対する実績値の評価」のところ、一つ目の四角の終わりの方で「回答理由においては、観光資源はあるが、生かしきれていないという意見が多く見られた」とあります。これに対して、右下の「施策の評価と今後の方向性」のところ、「じゃあどうしていくのか」というところがいまいち見えてこないということで、私の意見を交えてお話させていただきたいなと思うのですが、清洲城は、私はもうア

ミュージメント施設で良いと思います。それで、総見院とかに行くと信長のお墓があります。須ヶ口の方に行くと今川義元の首が埋まっているという首塚、それから美濃路の下外町の近くには熱田からの二つ目の一里塚というのがあります。そんな資源を清洲城と紐付けして行って、あと街道にしても美濃路だけではなくて、岩倉街道、津島街道といった交通の要衝と言われた場所で、問屋記念館もありますけれども、日本の三大青果市場、東京の神田と大阪の天満に並ぶ小田井の市場、そういうものがあつた場所ですので、そういったところをもっとどんどん、本物があつた場所なのだよということをもっとアピールしていかないといけないのだろうなと思っています。

それからあと、一つはもっと名古屋城との連携が取れないのかなという気はしています。特に「清須越」で、先ほどの総見院なんかでも東別院の方に移って実際にありますし、名古屋の堀川には御園橋もあれば、あとは円頓寺の商店街を過ぎたところは五条橋、そんな地名がどんどん向こうに「清須越」で移って行って、そんなところの相関地図なんかもパンフレットでちょっと用意したりして、今度は紐付けしていけば、名古屋市が一生懸命木造天守の再築とかをやっているところにうまく便乗できるのではないかなと思っていますので、長い目で活用できるのではないかなと思っていますので、そんなところを今後の方向性のところで一つご検討いただきたいなと思います。

(野田会長)

ありがとうございました。

知名度の非常に高い、本物の地域資源がせつかくありますから、それを生かして、既にもうご担当者様の方でお考えのところも十二分にあるのだと思いますけれども、実際の事業の実施の段階でご検討いただければなと思いますし、さらには他の地域のお城めぐりとかをされている方も結構いらっしゃると思いますので、他の地域の地域資源との連携と言いながら、立地地域の地域資源を生かしていくというようなことも踏まえていただければなと思います。

他にどうでしょうか。齊藤委員、お願いします。

(齊藤委員)

言いやすい分野ですし、結構やはり明るい分野ですので、厳しいことを言わせてもらいますけれども、まず外部評価の視点で「各事務事業の評価、施策への寄与度等が適切か」ということなのですが、やはりこの書き方は適切ではないなというふうに思います。と言うのは、例えば「観光協会事業費補助金」ということで、1,800千円ほど平成27年度、平成28年度と毎年補助をしているということですね。そしてですね、それに伴って内容としては、色々なところで情報収集をしたりして、お土産品とかを展開してというようなことで書いてあるわけですが、ただそこで開発したお土産は多分、清洲ふるさとのやかただけで売られているわけではないとは思いますが、

「活動指標②」を見ると「清洲ふるさとのやかたでのおみやげ品販売額」、これは資料4の方を見てもらうと分かるのですが、平成27年度と平成28年度の差額は約1,000千円、平成28年度に1,000千円くらい増えたよというふうに見ることができるのかなと思います。1,800千円補助していて、1,000千円しか増えていないというふうにもここだけだと、そうではないとももちろん分かっているんですが、そういうふうにも捉えることができるのではないかなと思います。それ以外でしたら、「こういうところで寄与していますよ」ということを、やはりこういうところに書くべきだと。それで、この情報だけで寄与度のところを見ますと、四角の三つ目のところに「おみやげ品の展開などにより、地域資源を活用した観光の振興や、地域の活力醸成に寄与することができた」というふうに自己評価をされているということで、やはりですね、もうちょっとここは厳しく評価をしても良いのではないかなというふうに私はちょっと受けることができました。

またですね、例えば平成28年度に色々なところでリーフレットを配っているんですね。それでリーフレット、本当にいっぱい配っているようで、たくさんの方にリーフレットということが書いてありまして、ただ結果はこうだったと。そして今後としては、もちろんリーフレットの配布場所とか配布方法の検討をされるということですが、そもそも配布場所とか配布方法はもちろん、リーフレット自体も検討した方が良いのではないかなと、この資料だけだと読み取れるのではないかなというふうに思います。

今各地で、観光に関しては色々な取り組みをされているところでございますし、地方財政の中で観光というところがすごく明るいし、わくわくする分野の一つでございますので、少し厳し目に評価されて、結構予算はある程度の規模を割いてもらっている状況だと思いますので、もしここに対してもっと市が力をいれるべきだということでしたら、やはりもっと頑張ってもらって、もっと清須市のことをPRできるような、先ほど山本委員がおっしゃったところと重なるところはございますが、もうちょっと、ちょっとくらい頑張っても良いかなというふうに感じるところでございますので、すみません、ちょっと厳しい意見で申し訳ありませんが、以上でございます。

(野田会長)

ありがとうございました。

先ほど産業課長の方から色々なコンテンツとか提案がございましたが、それが今後の方向性ですので、そこにつながるということにもなると思いますので、まあ少し厳し目ということですね。観光関係というのはどれくらい頑張っても、全く関係のない外部的要因によってもものすごく観光客が増えたりしますので、市の取り組みと直結しない部分は非常に大きいのですけれども、ただもう既にこれからのいくつかのイベントとか、取り組むべき方向性みたいなものはお示しされていますから、この寄与度については少し厳し目というご意見もご参考にさせていただければなと思います。

他にどうでしょうか。中田委員、お願いします。

(中田委員)

県の貝殻山貝塚資料館が平成 32 年度にリニューアルするということも知らなかったですし、吉野ヶ里遺跡に匹敵するということも知らなかったのですが、「そうなのだ」と思ったら、すごく行きたくなくなってしまいました。それで、中学校 1 年生の 1 学期の歴史のテストの範囲がちょうど、吉野ヶ里遺跡という項目を書くテストも出ますので、是非清須市内の中学校 1 年生の 1 学期の見学コースに入れて欲しいと思います。必ずここで勉強する、というようなことをしていただけたらありがたいなと思いました。

(野田会長)

ありがとうございました。

今のご意見も踏まえて、事業展開をお願いできればなと思います。

そうしましたら、次に行きたいなと思いますがいかがでしょうか。

福田委員、お願いします。

(福田委員)

一つだけ、ちょっと意見を言いたいなと思うのですが、先ほどこの三つの良い施設をめぐるというような、そういうお話がありましたが、本当に自分で車を運転できる方は良いと思うのですが、結構お年寄りで時間のある方、そういった方がこういうところへ行っていただくと良いなと思うのですが、その時に「あしがるバスがあるから良いのではないか」と言われる方もあると思いますけれども、あしがるバスはあちらこちら回って歩くものですから、すごく時間がかかるということで利用者さんが少ないと思うのですね。ですから、本当に観光に力を入れていただくのであれば、この三つの箇所とかをもっと迎えに回って、説明も聞けるような、そういう観光タクシーみたいなものもこれから考えていただけたら、もっと集客も多くなるのではないかなということを思いました。以上です。

(野田会長)

ありがとうございました。

観光タクシーも事業展開に十分寄与する内容だというご意見でした。是非ご検討いただければなと思います。

そうしましたら、「施策 601 生涯学習の充実」に入りたいと思います。事務局の方から説明をお願いします。

(事務局)

資料3 平成29年度 施策評価結果（平成28年度対象）外部評価対象分のうち、「施策601 生涯学習の充実」について説明。

（野田会長）

ありがとうございました。

「生涯学習の充実」ということで二つの事業、「生涯学習推進費」と「夢広場はるひ費」ですね。「目標値に対する実績値の評価」は少し低くはなっていて、周知が課題であるという話がありました。寄与度については、まあ一定できている部分もあるという回答でした。

以上につきまして、ご意見の方いかがでしょうか。山本委員、お願いします。

（山本委員）

山本でございます。2点ございます。

まず一つ、「達成度指標の状況」です。私、もともとキンビールで広報畑が長くて、本社で工場見学の統括もやっていたので、参加者の満足度とか来場者数というのはすごくこだわりがあります。それで、参加者の満足度というのはやはり9割を超えだすともう誤差の範囲で、N数がぶれたりすると変わってくるので、これ質問もあるのですが、満足度がここでは例えば5段階の5と4を取っているのか、トップボックスだけなのかということでもあります。恐らく5と4を取っているのであれば、トップボックスだけで追っかけてみる、日本人はまあ大体上から二つ目、松竹梅だったらということを行いますから、そこでもやはり一番上を取る人、一番上でも良い人というのを取ってみるのも、考え方としてありなのかなと思っております。

もう一つは来館者数、人のこだわりなのですけれども、同じように平成24年に開館しましてオープン景気があって、じりじり下がってきたけど上に持ち直したということになるのですが、このトレンドだと前期計画目標値の200,000人はちょっと難しいのかなということなんです。何らかの対策を打っておられているのか、また違う目玉、ちょうど先週、弊社と清須市様と名古屋芸術大学で「日本一ビールに詳しくなるための図書コーナー」という企画をさせていただいて、これが共同通信にも載りまして、全国の地方紙に載って、仙台のシェア5割くらいの河北新報に結構大きく載ってですね、仙台工場の人間から「清須市さん、すごく面白いことをやっていますね」ということもありましたので、そういうところも通じてですね、色々な仕掛けをやっていかないと200,000人は難しいのかなと思っています。

従来のやり方を続けるということも大事なのですが、大きな目標があるとそういうプラスアルファ、大きな仕掛けをやっていかないと達成できないのではないかと思いますので、考え方をお聞かせください。以上2点です。

（野田会長）

ありがとうございました。

事務局の方から、二つですね。いかがでしょうか。

(栗本教育部次長兼生涯学習課長)

生涯学習課長の栗本でございます。

図書館の来館者数につきましてははできた当初、平成 24 年の図書館開館でございますが、平成 24 年、平成 25 年にかけては新しいもの見たさではないですが、やはり関心が高い状況でした。内容につきましては指定管理、民間の力をフルに発揮していただきまして、色々な企画をしております。先ほど山本委員からお話がありました「日本一ビールに詳しくなるための図書コーナー」を作りまして、対外的にPR等をさせていただき、それに基づいた来館者数を期待しているというところでございます。これからもですね、ますますそういった発展的な考え方というのか、私ども官公庁で協力できることはさせていただき、また民間の力を活用して奇抜なアイデアというのか、斬新な考え方にも引っ張られながら企画をやっていくことで、来館者数も伸ばしていきたいというふうに考えております。以上でございます。

(野田会長)

一つ目の「生涯学習講座の参加者満足度」ですが、これは多分ですけれども参加している方にアンケートを配って満足かどうかを聞いていて、普通は参加しているので結構上に書きますよね。その影響ではないかなという気はするのですが、どうでしょうか。

(栗本教育部次長兼生涯学習課長)

生涯学習講座のアンケートについては、参加された方を対象にアンケートを取ってございます。その内容について、講師の話聞いて理解度が高かったか、面白いものであったか、興味が深いものであったかなどをお聞きしています。

私ども生涯学習課といたしましては、生涯学習講座はあらゆる面の取っ掛かりということで講座の方を進めさせていただいております。そういったところで、これからも新しい講座、ニーズに合わせた講座などを取り入れて、市民の方に満足していただけるような講座を企画していきたいと考えております。以上でございます。

(野田会長)

山本委員、どうでしょうか。

(山本委員)

来館者数の増加については了解いたしました。満足度については、すみません、何段階評価で、どこをすくっているのでしょうか。

(栗本教育部次長兼生涯学習課長)

すみません、何段階というのはどういうことでしょうか。

(山本委員)

要は「満足しました」「満足しませんでした」という二択なのか、それとも「大変満足した」「満足した」「普通」とかの一番上の二つのボックスを取っているのか、一番上のボックスだけを取っているのか、そもそも何段階評価を取っているのか、そういう質問でございます。

(栗本教育部次長兼生涯学習課長)

すみません、4段階評価で上二つです。

(山本委員)

了解しました。

先ほど私が申し上げたように、トップボックスだけに絞るという考えはございますか。

(栗本教育部次長兼生涯学習課長)

そうですね、現状は「満足した」「ほぼ満足した」という上二つを取って評価として見ているというところでございますが、周りも大体そういった評価でやっているのではないかなと思いますので、今後も同じ形で進めていきたいと思っております。

(野田会長)

4段階のうち上二つということで、しかも実際に参加されている方ですので、そんなに悪く書かないということが前提になると、まあ9割くらいになってしまうなということがあるので、山本委員から「一番上だけを取ってみてはどうか」というお話で、一番上だけ取ってデータを作るということもできますので、今のところ上の二つということで続けられるということで、それでも良いかと思いますが、一番上のデータも使えるようであれば見ていただくこともしてもらって良いのかなと思います。

(栗本教育部次長兼生涯学習課長)

ありがとうございます。参考にさせていただきます。

(野田会長)

他にどうでしょうか。綱島委員、お願いします。

(綱島委員)

意見というより教えていただければと思うのですけれども、こういった図書館の利用ですとか、生涯学習の取り組みみたいなものって、多分どこでも一緒かもしれないのですけれども、子どもさんと、どちらかというと高齢の方が中心、ターゲットというか対象になるかと思うのですけれども、今の清須市の利用状況とかを色々見た時に、働いている中心になっている世代とか、子どもと一緒に利用するとか、そういうのは色々あると思うのですけれども、なかなか遠ざかってしまうところがあると思うのですが、そういった離れていってしまっているような層に対する何かアプローチみたいなものというのはどんな状況なのか、ちょっと参考ということでもあるのですけれども、教えていただければと思います。

(栗本教育部次長兼生涯学習課長)

栗本でございます。

生涯学習講座につきましては、やはり参加されている年齢層としますと、高齢の方または親子連れということになっております。現役世代の30代、40代、20代の若者といったところはあまり参加されていないというのが実情ではございます。その実情に対してですね、私ども生涯学習課といたしましては、講座を開設する時間を夜間6時以降にしたりですとか、土曜日、日曜日に開設する講座を設けたりとかといったことに取り組んでやっておりますが、実際ここ2、3年そういった取り組みもやっておりますが、若い方、現役の方は他にたくさんやる趣味があるのかどうか分かりませんが、なかなか参加していただけないというのが実情でございます。以上でございます。

(野田会長)

図書館についてはどうでしょうか。図書館も年齢別で見ると。

(栗本教育部次長兼生涯学習課長)

図書館はですね、ほとんどの年齢層の方に来ていただいております。特に働いている方たちのニーズに合わせて、今まで図書室であったものを図書館にしたのですが、その時に今までは5時までの開館時間を7時までに延長して、働いている利用者の方にも対応しています。

また、若い方、親子連れに対しましても、読み聞かせですとか、色々なイベントを企画して来館を促進しているというような状況でございます。

(野田会長)

働いている方も来られているとは思いますが、多分人口の構成比に占める割合は恐らく少ない気はしますが、そういう少ない層に対して何かされているというこ

とはありますかという質問だったのですが。

(綱島委員)

色々と時間を工夫されているとか、実際はなかなか忙しいということがあるので行けないのですが、色々と多面的に取り組まれているということですね。ありがとうございました。

(野田会長)

もう一つくらい、いかがでしょうか。

(川口委員)

先ほどの産業課さんとの話の時に、中田さんの方からもお話が出たのですけれども、観光とかをやっていく中で地域の人間、特に小学生、中学生に関して、これほど信長の生まれた場所で、色々な観光資源があって、自分のところの地域のことを分かっているという子があまりいない、知らない子が非常に多いですね。私も「尾張西枇杷島まつり」のお囃子方をしていまして、小学校に行って笛とか付け太鼓などを教えたりしているのですけれども、基本的に小学校も個々でやっているのですね。そういうのを例えば産業課さんとか、今の生涯学習課さんのサタデーキッズクラブの方とかで連携と音頭をとっていただいて、小学生とか中学生の地域の事に関して学ぶ場というのをもっと、より増やしていく必要があるかなというのを今考えてはいるのですけれども、そういう連携とか施策みたいなもので今考えているものがあれば教えていただきたいなと思います。

(栗本教育部次長兼生涯学習課長)

生涯学習課長の栗本でございます。

今委員がおっしゃられました「尾張西枇杷島まつり」の関係でございますが、サタデーキッズクラブの中で「山車に触れてみよう」という講座をやっています。これにつきましては地元の山車を持っている町内会さんのご協力を得まして、「空木立」というのですけれども、祭りの前の山車を組み立てる時にですね、小学生の子どもたちに見学に行ってもらって「山車はこうやってできるのだよ、山車とはこういうものなのだよ」ということで、中にはお囃子を吹いたりしてやっていますよということを地域の子どもたちに紹介しているところでございます。そういった取り組み、お囃子やからくり人形につきましても、そういったものを継承していけるような取り組みをこれからも色々とやっていきたいというふうに思っております。

あと貝殻山貝塚資料館でございますが、こちらは現状では滞在時間が20分ほどで、中を見てすぐおしまいというような状況でございます。ただこれに関しましても、地元の方にこういった大きな遺跡があるのだよということを紹介するために、教育委員

会、学校教育課を通じまして、小学校、中学校の方で必ず1年に1回は貝殻山に見学に行ってお勉強しましょうというような授業も行ってございます。昨年については市内の小学校8校中6校の見学がございました。今年については8校全部が行くようにといた話もしておりますので、そういったところで地元の方にも、子どもの頃からそういったものを教えていって、「こんな郷土の誇りがあるのだよ」ということを広めていきたいなというふうに考えてございます。

(石田産業課長)

一つよろしいでしょうか。

市民の方が「満足ではない」とか「重要である」と感じているのはPR不足ということもあるのですが、市民の方に観光に関わっていただくということも非常に重要ではないかなということで、市民協働の関連にもなってきますが、その中でも子どもたちに観光を将来PRしていただきたいということを思っておりますが、それには郷土の誇りといいますか、そういうものを持ってもらわなければいけないというところで、現在産業課の方では清洲城内で紙芝居を上映しているのですが、その紙芝居を持ち出しまして、各小学校を今回回っているという状況で、子どもたちに信長公の知られざる足跡といいますか、そういうものを紙芝居でお話をさせていただいております。1回目をやらせていただいたのですが、思ったより子どもさんは清須、信長のことをご存知で、非常に驚いているところでございます。7月5日にですね、桃栄小学校でやらせていただきまして、まだ他の小学校もあるのですが、6日の毎日新聞にそのことが掲載されておりますので、またよろしければご覧いただきたいというふうに思っております。以上でございます。

(野田会長)

ありがとうございます。

地道な活動で地域のことを知ってもらえると思います。是非続けてもらえればと思います。

山田委員、お願いします。

(山田委員)

山田でございます。

「生涯学習推進費」の平成28年度決算額が1,054千円、執行率が72.6%、活動指標の目標が生涯学習講座は24講座に対して22講座、サタデーキッズクラブは11講座に対して9講座。これはきっとやろうと思ったけれどもできませんでしたということなのですよね。その方向性として、右下の上二つの四角が対応するというところでよろしいのですかね。結局教えていただく方の数がちょっと足りないなので、講座を開くには至らなかったよというのが現状でしょうか。

(栗本教育部次長兼生涯学習課長)

栗本でございます。

委員のおっしゃるとおりでございます。募集をかけましたが、参加人数が集まらなかったというところで、開催しなかったという講座もございます。

それから実績に伴いまして、満足度の結果もありますし、参加人数、そういったものを合わせまして次年度の講座の割り振りをしておりまして、新しいものを取り入れて、今は大抵3年を目途にしておりますが、3年続けたものは一回ここで終了してまた新しいものというような形で取り組んでいるところでございます。以上でございます。

(野田会長)

よろしいですかね。

そうしましたら、おおむね意見を言っていたということで、最後に施策704について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料3 平成29年度 施策評価結果(平成28年度対象)外部評価対象分のうち、「施策704 市民ニーズに応える行政運営の推進」について説明。

(野田会長)

ありがとうございました。

ご意見どうでしょうか。この分野は特に批判の高い、どこの市町村でも最も批判される分野でございます。7つの施策の中では満足度が低いという状況ではあります。しかしながら、過去からの時系列で見ると徐々に上がってきているということは一定の評価につながると思います。そういった意味での評価ということで、何でも結構でございます。

いかがでしょうか。山本委員、お願いします。

(山本委員)

山本でございます。

先ほど会長の方が突っ込まれやすいということをおっしゃられたのですが、私は人の育成というのはすごく大事だと思いますので、こちらには一定の経営資源、人もそうですし、お金もかけた方が良くと思います。

資料3の方を見ますと平成27年度は約9億円、平成28年度は約30億円となっていて上がっているかなと思ったのですが、詳細を見ますと「本庁舎費」とか「本庁方式移行費」とかで、これを除くと3分の1くらいになっているのですが、逆に大丈夫

かなというふうに感じています。ただ資料4の方に行きますと、職員の育成については予算が上がっておりますので、まあ大丈夫なのかなと思うのですが、そちらにつきましては逆に一定の経営資源を残して、市役所ですから経営資源ではないのかもしれませんが、資源を残してされていかないと組織全体が脆弱化していくと思いますので、その辺は一定の確保はお願いしたいと思います。要望でございました。

(野田会長)

ありがとうございます。

職員の育成というところですね。やりがいを持って仕事をしてもらわないと、そういう意味での持続可能ではなくなると思いますので、要望として受け止めてもらえればなと思います。

他にどうでしょうか。中田委員、お願いします。

(中田委員)

私の周りのことなのですけれども、支所に色々な用事で行くと、よく分からないような感じで結構時間がかかるのですが、「じゃあもういいです、本庁舎に行きます」といって本庁舎に行くとばっばと済んで、事が早く進むのです。私たちみたいに車に乗れる中高年、シニアであればまだ良いのですが、老人の方は支所に行くしかないかなと思うのですが、本当にこの市役所で働いている方の対応はすごく良いなと思って、気持ちが良いし、優しいねと皆で言っています。昔は役所に行くのと叱られて、「どうして分からないことを聞きに来たのに叱られているのだろう」という感じだったのですけれども、この頃では名古屋市に行っても感じたのですが、清須市もすごく対応が良くて、分からないことでも「そんなこと聞いてくだされば良いのですよ」という感じで、ほっとしてまたここに来たいという気持ちがわくようになりましたので、すごく皆さん研修して、勉強されているのだなという印象を受けました。

その反面、支所はちょっとという感じですね。ですので、もうちょっと連携を通じて、色々なことが分からなかったら支所の方も一生懸命勉強していただきたいなというふうに思いました。よく支所で怒鳴られている方、怒鳴っている方も怒鳴っている方だと思うのですけれども、結構トラブルが多いみたいで、どっちもどっちかなというふうに思うのですが、そういうふうにならないように資質を高めて、仕事を行っていただきたいというふうに思います。

(野田会長)

ありがとうございます。

ちなみにその内容というのは、例えば支所でできないこともありますので、要するに対応の問題なのではないでしょうか。

(中田委員)

できなかつたら「できません」と言えば良いのですが、「できるかな」というようなあいまいですので皆が困ってしまって、「こっちは急いでいるのだけれども」という感じで怒りが爆発する時があります。できないならできないと断定的に言ってもらえば良いのですが、あいまいなのです。でも職員の方は「断定的に言うと失礼かな」とか「またお叱りを受けるといけないかな」と思ってあいまいに言っているのだと、そういう気持ちもあるのかなというふうに察するのですが、「できないことはできないので、もう一度足を運び直してください」と言ってもらえれば良いのですが、やはり一番いけないのはあいまいなところだと思いますので、あいまいをなくしてもらいたいです。

(野田会長)

ありがとうございます。

支所であろうが本庁であろうが、同じ公務員の方ということで、我々が税金を託してお願ひしている方ですから、お聞きしたような、きっちりしているということはやはり気持ちの良い組織のイメージがありますので、是非その辺りはしっかりと育成ということでやってもらえればなと思います。

他にどうでしょうか。この分野は直接主担当課が企画政策課さんということなので、言いづらい部分があるかもしれませんが、全くそんなことは関係なく言ってもらいたいなと思います。

一つはまさに今この委員会をきっちり回していただいて、外部からの評価ということ自体が、この施策を推進する上で最も重要なことのひとつだと思います。今我々自身もそれに関わっていますので、我々も責任を果たしていく必要がありますし、注視をしていく必要があると思います。

ちょっともう時間があまりありませんので、施策 704 を含めて結構でございますので、全体を通じてもう一度この施策のところでは何かあれば、あるいはそれ以外のスケジュールなども含めて結構でございます。どんな観点でも結構でございますので、ご意見いただければと思います。いかがでしょうか。

齊藤委員、お願いします。

(齊藤委員)

齊藤でございます。

まずですね、最初にいわゆる市民の満足度とか重要度の平均値とか、そういうところから政策サイドの順位を決めて、必ず評価をしていって、今日のこの委員会で皆さんと一緒に議論をさせていただいたという流れであったと思います。それで今日議論をさせていただいたのは、ここでいう市民の重要度の平均値から満足度の平均値を引いて乖離の高いものについて、今日議論の中心であったのかなというふうに思いま

す。その順位が付けてあって、今年度と来年度でやっていくというご説明もいただきましたし、その乖離が高いところを今日十分議論させていただきました。

外部評価をしてみても、その内部の評価とか、実施していらっしゃるということのは、色々な意見はありましたけれども、やはりそこまで大きく外れるものではないということだったのかなというふうに思いますし、皆さんきちんと目的を持って、そこに向かってやっているという様子はすごく伝わりました。

だとすると、やはりこの政策内の順位の付け方とか、そこってやはり問題というか、そこをもう一回考えた方が良いのかなというふうに思いました、議事録にも残してもらったためにも今発言をさせていただいていますが、重要度の平均値から満足度の平均値を引いたもの、この◎というのが何を指すのか、やはり良く分からないなというふうに、私もずっと考えていたのですが、やはりよく分からなかったのです。満足度と重要度の乖離が多ければ値が多くなるということは何を指すのかが、やはりよく分からないのですね。

市民が思っている重要度って、もちろん大切な観点かもしれませんが、大切なのですけれども、もう一つ大切なのはやはり市が重要だと思っていて、市の中で政策の順位付けをしているので、その中で「ここに力を注いでいるよ」といったところと、そこにおける満足度、その乖離が大きいのであればちょっと問題なのかなと思います。ですので、政策内の優先順位の付け方というのをもう一度ご検討していただきたいなというふうに思いました。

またですね、最初の方に山本委員や会長の方からありましたように、満足度ですかそういった点数の取り方、「どちらともいえない」を0点とするのをどういうふうに受け取るのか。例えば5段階評価でいくと3になりますが、「どちらともいえない」の3って、やるべきサービスはきちんやっている3とも考えられるのかなと思います。ただし、それ以上のことはないし、それ以下のこともないので、満足でも不満足でもない、まあどちらともいえないという判断もできるのかなと。その3というのは、決して悪いことではないと思うのですよね。市の行政上、そういったやるべきことをきちんとやっていけている、プラスアルファで市によって重要な政策をどう遂行していくのかということも目的の大きなところだと思いますので、そこは多分、清須市さんは自分たちのことを厳し目に評価をされているということだと思いますが、ただあまり厳し目に評価をすることが、市民に発信した時に、市民にとってそこが市民に伝われば良いのですけれども、「清須市ってこんなものなのか」というふうにもとられかねないなというふうに思いますので、そういうところはもう少しきちんと評価、然るべき評価を受けるところもあるかなと思いましたので、この辺りのところをまた次の機会に向けてご検討いただければと思います。

すみません、長くなりましたが以上でございます。

(野田会長)

ありがとうございます。

何点かございましたが、1点目は大変ありがたいお話で、自己評価ではあるけれども、そんなに大きく乖離していなかったという部分は感想としていただいたかなと思います。心強いお話だと思いますし、それと一番最後の話も連動はするのですけれども、厳し目ということが果たして良い事かどうか、より客観的に自己評価をやっていたかどうかということも踏まえていただくのかなという気はします。

それでちょっと間にですね、この優先順位で今回抽出したもの、これがなかなか難しい部分がございます、尺度の取り方、これはちょっと確かには問題をはらんではいるのでけれども、とりあえずこれまでの取り方との整合性ということを考えて、今回はこのようにさせていただいたということです。優先順位については、要するに重要性は高いと言っているのに満足度が低くなるものを、それぞれの政策、7つの分野の中で見ているのです。ですから全部一緒に見ると、またちょっと状況が変わってきたりとかします。ということからすると、恐らくですけれども、私はそれぞれの政策の中であえて二つ抽出しろと言われると、比較的重要なものばかりかなという気はしていますので、結果として今齊藤委員が言われた、市が重要だと思っているものが抽出されているような気がします。全てですね。また皆様の方でもご確認いただければと思いますけれども、ただやはり全部やってもらうということが重要ですので、これは一応全部やってもらったものがこれから公開されていきますので、そこは全てのデータを公開していただければなというふうに思います。

時間は過ぎてしまっているのですが、ご意見があればお願いします。

川口委員、お願いします。

(川口委員)

一つだけお願いします。道路の関係で特に何もなかったのですが、後ほど思いついたことですがお伝えさせていただきます。

「道路利用者の利便の増進と安全確保」という施策でありますので、清須市は非常に道路が多くて、私も仕事上色々なところを通るのですが、抜け道も非常に多いです。道路の幅に対して交通量が非常に多いところ、特にスピードをものすごく出して走るようなところ、私の思いつくところだと西枇杷島の本通りとか、特に深夜などは車が2台すれ違うのがぎりぎりな割に60kmくらいで走ったりというところも道としていくつかあります。

修繕等も非常に必要かなとは思いますが、そういう危険な道路なんかをピックアップしていただいて、スピードとか交通量を抑えるような施策をとっていただくことを考えていただくと非常にありがたいなと思います。以上です。

(野田会長)

ありがとうございました。

非常に貴重な意見ですね。事実上の交通安全を推進していく上で、道路の拡幅はなかなか難しいと思いますので、スピードを抑えるような交通安全対策をやってもらえればなと思います。

他にもう一つくらいどうでしょうか。福田委員、お願いします。

(福田委員)

一つだけお願いいたします。

今の道路について、通学路についてなのですが、子どもたちが安全に通学できるという交通安全の面と、それから生活安全の面ですね。裏道が多いということでしたが、交通安全に気をつけて裏道の方を通学路にした場合に、やはり生活安全の方でちょっと心配な面があるということなのですね。そこをどうやってうまくやっていくか、どこをどういうふうに通学路にするかということが、いつも学校の方で問題になるわけなのですが、そういうところでうまくやっていける、交通安全にも気をつけながら、生活安全にも気をつけて、子どもが安全・安心に学校に通えるような、そういう道路の確保というのか、そういうことを皆で知恵を出して考えていただきたいなというふうに思います。

先日も見守りをしている方の色々なことがあったものですから、そういう人的なものもあるのですが、道路の幅に対する音とか、そういうこともあるのですが、本当にこれからの子どもたちが安全・安心に学校に通えるような、そんな通学路でありたいなというふうに思っております。また色々お知恵をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

(野田会長)

ありがとうございました。

子どもの通学路に関わる部分、一応一番最後に学校の通学路ということで含まれていますけれども、具体的な施策展開と評価の方に反映してもらいたいなと思います。

よろしいでしょうか。もしあれば、もう一つくらい。よろしいですかね。

正直ですね、私今回すごく難しいなというのは思いましたので、あんまり意見が出ないとどうしようかなと思ったのですが、さすが皆様どんどん意見が出てきて、本当に私自身勉強になりました。どうもありがとうございます。

ということで、一応ここまでで第1回委員会の外部からの意見は終わりにしたいと思えます。

そうしましたら、事務局の方にお戻ししますので、お願いします。

#### 4 閉会

(事務局)

皆様色々なご意見をいただきまして、ありがとうございました。

今回ですけれども行政評価に係る外部評価ということで、皆様にお集まりいただいて平成 29 年度はこの形でやりたいということで、資料 1 にありますとおり、今回第 1 回としてこの様に実施させていただきました。ただ我々としましても、行政評価に係る外部評価につきましては、まだまだこれが終着点だと思っておりません。まだまだ発展途上の制度だというふうに思っておりますので、これからも皆様のご意見等を参考に、一つ一つ進歩していきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

なお、第 2 回の委員会につきましては、平成 29 年の 10 月頃を予定しております。詳細につきましては、改めてお知らせをさせていただきますので、よろしくお願い致します。

本日は長時間に渡りご審議を賜りまして、ありがとうございました。

以上で終了とさせていただきます。

問い合わせ先	企画部企画政策課 電話 052-400-2911 (内線3250)
--------	--------------------------------------

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

署名委員 山本 武司

署名委員 中田 繁美